

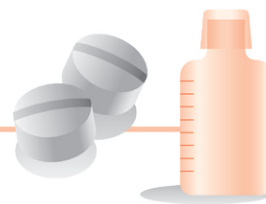
おくすりを使ったときの症状を観察しましょう

「薬が効いているか」、「薬を使っているときに気になる症状はないか」をよく観察しましょう。



こどもは自分自身で症状の変化や気になる症状について判断したり、だれか他の人に伝えたりすることはなかなかできません。保護者が気をつけて見てあげる必要があります。

観察した症状は、忘れずに伝えることができるように、おくすり手帳などにメモしておきましょう。



● 症状の変化を観察する

医師は薬の効果を判断し、適切な薬を選択しています。薬を使ったときに症状の変化を確認し、次回受診された際、医師に報告しましょう。

例えば、次のようなことを観察します。

解熱薬	薬を使用後どのくらい(時間)で熱が下がり始めたか、何度まで下がったか
頭痛薬	薬をのんだ後、どのくらい(時間)で頭痛が治まったか
下痢止め	どのくらい(何日間)薬をのんで下痢が止まったか

● 気になる症状がないかどうかを観察する

薬を使ったときに、気になる症状を観察したら、早めに医師や薬剤師に相談しましょう。その気になる症状は薬の副作用かもしれません。副作用の程度によっては、医師は薬を中止したり、変更することがあります。

例えば、次のようなことを観察します。

抗菌薬	のみ始めてどのくらい(時間や日数)で下痢になったか 下痢の症状(ゆるいくらいなのか、水のようなのか)はどの程度か
下痢止め	どのくらい(回数や日数)のんで便秘になってしまったか

気になる症状は必ずしも副作用であるとは限らず、体調の変化で別の症状が出ている可能性もあります。早めに医師や薬剤師に相談し、確認してもらいましょう。

